

# 世界のセレブリティに愛される 光り輝くシャンパン Armand de Brignac アルマン・ド・ブリニャック

名だたるハリウッドスターやスポーツ選手など世界のセレブリティから愛され、現在最もゴージャスなシャンパンとして知られる「アルマン・ド・ブリニャック」。日本ではまだ入手困難といえるリクスなシャンパンの魅力に、ワインスペシャリスト渡辺順子氏が迫る。

10月のある日、東京・西麻布の和食レストランに、ワインを生業とする2人の紳士が現れた。セレブリティ御用達シャンパンとしてその名を知らぬ者はいないという話題のシャンパン「アルマン・ド・ブリニャック」の醸造責任者であり、10代続くシャンパンメーカーの当主ジャン・ジャック・キャティア氏と、「アルマン・ド・ブリニャック」含む複数のワイン関連会社を統括するブレット・ベリッシュ氏。同じくワインの専門家である本誌でもお馴染みのワインスペシャリスト渡辺順子氏が「アルマン・ド・ブリニャック」について2人に聞いた。

**渡辺** 「アルマン・ド・ブリニャック」は権威あるシャンパン・マガジンで世界ナンバーワンに選ばれましたね。

**ベリッシュ** ありがとうございます。2007年から販売を開始したのですが、今ではもうほとんど売り切れてしまいました。

**渡辺** 特にアメリカで大変な人気ですが、どうしてでしょうか。

**ベリッシュ** 販売をスタートした2007年当時はまだ景気も良く大きな反響がありました。それに、「アルマン・ド・ブリニャック」は非常にユニークな商品です。全行程を手作りで一本一本作っているという姿勢が、いわゆるセレブリティたちの支持を

得ました。さらに、彼らが自発的に「アルマン・ド・ブリニャック」を宣伝してくれたのです。ミュージシャンやスポーツ選手、ラップ歌手のJay-Zなどです。ニューヨーク・ヤンキースが優勝した時のシャンパン・ファイトにも使われ、松井秀喜選手も飲んでいましたから、日本の皆さんにも馴染みがあるのではないのでしょうか。サッカーのベッカム選手がアメリカのクラブに移籍した時に振る舞われたシャンパンも「アルマン・ド・ブリニャック」です。「セレブリティが飲むワイン」として知名度が上がり、ワイン通でなくても多くの人に支持されるようになりました。

**渡辺** 「Cattier(キャティア)」でこのシャンパンを作ることになったきっかけを教えてください。

**ベリッシュ** 1999年にシャンパーニュ地方を回り、ほとんどのワインハウスを訪問しました。その中でキャティアさんと出会い、彼が作っていたプレステージ・シャンパンに感銘を受けました。いろいろ話をしているうちにすっかり意気投合し、共同で新しいシャンパンを作ることになりました。

取材・文/SEVEN HILLS Premium 写真/中島貴義

**渡辺** 「Cattier」の歴史を教えてください。

**キャティア** 1763年に設立され私で10代目です。最初はネゴシアンだったので自分たちでシャンパンは作っていませんでしたが、1918年からシャンパン作りを始めました。現在の年間生産量は100万本です。うち40%がフランス国内マーケット、残りはフランス以外のマーケット向けで、世界70カ国に輸出をしています。100万本のうち「アルマン・ド・ブリニャック」は4万本です。

**渡辺** 「Cattier」はシャンパンハウスの中でも非常に古い歴史を持ち、キャティアさん自身も伝統的な製法を重んじる方として有名です。でも「アルマン・ド・ブリニャック」はボトルからしても先進的ですよね。

**ベリッシュ** ええ。キャティアさんの伝統的な製法と、こうした新しいデザインを取り入れるという現代的な発想を、良い形でミックスさせてこのシャンパンを創り出しました。

**渡辺** 「アルマン・ド・ブリニャック」はたったの8人で作っていると聞いていますが。

**キャティア** 人数は少ないですが、精鋭によるスペシャルチームを作り上げたのです。私と息子が醸造責任者ですが、その他にも専任の醸造責任者を雇いました。この3人が中心となって品質面を徹底的に管理しています。「アルマン・ド・ブリニャック」は非常に手間のかかるシャンパンです。ボトルも全て一つひとつ手作りです。スペシャルチームでこれだけのクオリティを保っているのです。

**渡辺** 「アルマン・ド・ブリニャック」というのは変わったネーミングですが、小説からとられたそうですね。

**キャティア** もう50年も前になりますが、私の母が読んでいた小説の主人公が「アルマン・ド・ブリニャック」でした。ブランドネームにどうかと言われましたが、その時はまだその名前をつけるべきシャンパンはありませんでした。ベリッシュさんと新しいシャンパンを共同企画してはじめてこの名前を使うことにしたのです。残念ながら母は



Jean-Jacques Cattier

ジャン・ジャック・キャティア

Cattier(キャティア)家10代目当主。一族が1700年代よりワイン畑を所有しているChigny-Les-Roses(シニー・レ・ロゼ)という小さな村で育ち、ランス大学にて25歳で醸造学の学位を取得。また同時に物理学で修士号も取得する。シャンパンメーカーであるCattierのマネージャーに就任してから35年、古いで伝統を守りながらも積極的に新しい技術を取り入れ続けている。

渡辺順子

Junko Watanabe

80年代後半にニューヨークに移住。ニューヨーク大学に通う傍ら、日系企業に勤務しファッション関連の会社を設立。「シャトー・ペトリュス」を飲んでワインに魅せられ、ワイン留学のため渡仏。その後NYに戻り2001年より世界最大オークションハウス「ニューヨーク・クリスティーズ」で、アジア人初のワインスペシャリストとして何万本ものワインの価値を決める。2009年に退社し、ワイン・コンサルタントとして株式会社フィフスに所属する。韓国、NY、日本でワインのセミナー、イベントを開催。欧米のコレクターやワイン商と取引し、アジア諸国に向けて事業展開する。アメリカソムリエ協会ソムリエ認定、ハリウッドブルー ワインプログラムのサティファイケイト、ボルドープロフェッショナルワイン協会ディプロマ、WSET アドバンス サティファイケイト



「アルマン・ド・ブリニャック」が世に出る前に亡くなりましたが。  
**渡辺** ボトルのマークが印象的ですが、これにはどのような意味が込められているのですか？

**キャティア** 「アルマン・ド・ブリニャック」は発音しづらく覚えにくいということもあり、わかりやすいシンボルということでスペードのエースのデザインを採用しました。昔から王がシンボルとしてエースを用いていますし、非常に象徴的なマークとして使っています。

**渡辺** 「アルマン・ド・ブリニャック」の哲学を教えてください。

**キャティア** 一番良いシャンパンを作りたいということが基本理念です。息子にも大学で醸造学を学ばせました。きちんと製造し良い品質のシャンパンを作るための努力は決して怠りません。私たちは大手のシャンパンメーカーではありませんが、量を追うのではなく、品質の良いものを提供し、お客様から感謝されるメーカーであり続けたいと思います。

**渡辺** この先の展開をどうお考えですか。

**ベリッシュ** 品質を第一に考えていますから、人気があるからといって量産する気はありません。ただ、もっといろんな国の方に飲んでいただきたいですね。日本の方にも食前酒として楽しんで和食と合わせたり、いろいろなシチュエーションで「アルマン・ド・ブリニャック」を楽しんでいただきたいです。



- アルマン・ド・ブリニャックが飲める店  
ぎんか波羅  
03-3409-1099 <http://www.kahala.in/>
- アルマン・ド・ブリニャック購入・問い合わせ先  
FIFTH  
03-6314-6481 受付時間:午前10時~午後6時(除土日祝)  
[info@premiumwine.co.jp](mailto:info@premiumwine.co.jp)



Brett R. Berish

ブレット・ベリッシュ

Armand de Brignac(アルマン・ド・ブリニャック)社長。Sovereign Brandsの最高経営責任者としてアルマン・ド・ブリニャックを含む複数のワイン関連会社を統括する。この業界で大変有名な一族の出身であり、一族にはジム・ベーム社の前CEOでSovereign Brandの社長でもあるBarry Berishも含まれる。Sovereign BrandsはフランスのCattier社、オーストリアのA&H Fuchs Winery社、メキシコのTequila Arette社など、その価値観を共有するパートナーと共に、伝統的な製法や昔ながらのやり方にこだわったワイン作りを行い、世界のワイン・アルコール業界から注目されている。